

## まえがき・あとがき（案）

## まえがき

## 第三次答申に際して

昭和 49 年の開館以来、県民の文化芸術への関心の多様化、社会の様々な分野でのデジタル化の進展など、千葉県立美術館を取り巻く環境は、大きく変化しています。

一方、平成 30 年度に制定された「千葉県文化芸術の振興に関する条例」では、心豊かな県民生活及び活力ある地域社会の形成に寄与するため、「県民がその年齢、障害の有無、経済的な状況又は居住する地域にかかわらず等しく、文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるような環境の整備が図られなければならない」（第 2 条第 3 項）とされており、全県域を対象に、県民の美術への興味や関心に応える県立美術館が果たす役割は、これからも重要性を増していくものと考えます。

「県立博物館・美術館の今後の在り方について」の第一次答申では、県立博物館の役割を、「全県域を俯瞰した資料収集・保管、調査・研究、教育・普及等を行う」、「県の魅力、県民の誇りとなるような文化・自然等の発信・紹介に努める」としています。

これを踏まえて県立美術館の現状と課題を整理し、今後の在り方や活性化について審議を重ねてきたので、ここに第三次答申として示します。

## あとがき

## 第三次答申の審議を終えて

今回の審議では、県立美術館の活性化について検討し、第三次答申を取りまとめました。

県立美術館の活性化については、美術館を取り巻く現状と課題に対応すべく、その目指す姿を、「みる・かたる・つくる」をキーワードに、伝統を継承しながらも、新たな取組にもチャレンジし、幅広い年齢層の県民に繰り返し利用してもらえる美術館としました。そして、この方向性において、芸術の鑑賞・創作における、「若い世代」による美術館利用の拡大を活性化策の重点と位置付けました。

県立美術館は、多くの団体などからの理解と協力・参加を得ることで、その活動の幅を広げ、活性化できるものと考えます。今後、県教育委員会及び県立美術館には、これまでの審議の中で示された方向性に沿って活性化を進めるとともに、積極的に情報を発信し、県民に開かれた運営を期待します。

以上をもって、諮問「県立博物館・美術館の今後の在り方」に対する全ての審議を終えます。